

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援さくらボViitta・BERG			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 10日		～	2024年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2024年 11月 9日		～	2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 4日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員それぞれの経験や資格を活かして、より対象児の特性や個性を捉えた支援計画と支援プログラムの立案が強みである。有資格者を積極的に配置することで、資格取得の中で学んできた対象のアセスメント・指導計画立案・評価の知識が活かされ、質の高いプログラムが提供できている。	研修の積極的な実施や受講助成により、職員の質の向上に努めている。無資格の場合でも仕事継続のモチベーションになるように資格取得を支援している。法人のネットワークを活用し、専門的なアドバイスが得られる体制を整えている。	作業療法・理学療法・言語療法の専門家の配置により、教育・保育の観点だけでなく、身体機能や保健学的な視点での支援プログラムの実施につながると考えている。
2	こどもを取り巻く環境へのアプローチを意識し、関係機関や保護者との連携を重要視している。	事業所では問題がなくても園・学校や家の中で問題が生じている場合があるため、保護者との情報共有を大切にしている。時には、生活リズムの改善や家庭での取り組みなど協力いただくために保護者に助言することもしている。	保護者同士の交流・きょうだい児への支援も考慮した機会を提供して行く。
3	こどもが安心して安全に通える施設であること。送迎も含め、安全管理を徹底し、保護者や関係機関からの信頼が得られていると考える。	職員への接遇研修、チームビルディングのための取り組みを行い、働きやすい環境を整えることで、職員のモチベーション向上と支援の質の向上につながっていると考える。	組織体制と役割分担の見直しにより、職員への負担の偏りをなくし、それぞれが責任を持って業務を遂行できる体制を整えていく。保護者や関係機関への対応をどの職員でもできるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や他事業所との連携の強化が必要である	開所2年目で、職員にとっても利用者にとっても通常支援のプログラムを定着させることが優先され、地域との連携までの余裕がなかった。	地域のイベントに参加するだけでなく事業所発信での行事を企画し、インクルーシブな地域社会づくりに貢献していきたい。
2	完全に周囲の音を遮断できるような個別スペースがほとんどない。	基準人員以上の配置をしており、スペースが手狭に感じられることがある。また、下校時間が重なっており、一度に利用する児の数が急激に増えている。	自己通所の児の利用時間の調整や、支援プログラムの見直しにより、施設利用場所や時間を分散化できるようにする。
3	HPやブログ、SNSを活用した事業所活動の公表が必要である。	個別の活動報告はSNS上でおこなっているが、担当職員の休職や退職に伴い、定期的なブログ更新ができなくなった。また、ブログの利用を中止した。	HPを有効利用し、次年度は情報発信を定期的に行えるような体制を整えている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	発達支援さくらボViitta
------	----------------

公表日 2025年2月1日

利用児童数 42

回収数 13

		チェック項目	はい (%)	どちらとも いえない (%)	いいえ (%)	わからない (%)	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	84.6	0	0	15.4		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	92.3	0	0	7.7		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	69.2	0	0	30.8		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	84.6	0	0	15.4		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100	0	0	0	システムは図工好きな子どもにとって楽しくて合っていると感じます。以前、電池と電球やプロペラ等の配置に関してのクイズ等を見ている時に、親よりも理解していたことがあり、遊ぶ中で自然と理解したのかなと感じました。	見学・体験時にも実施し、通所してからの支援プログラムのイメージを持ってもらうとともに、STEMプログラムの評価指標などの開発に努める
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100	0	0	0	先生にとっても懐いているので、良い関わりをしてくださっている	安心できる居場所としての機能を大切に環境づくりを工夫していく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	61.5	0	0	7.7	児童発達支援を利用している（30.8%）	
		児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100	0	0	0	放課後等デイサービスを利用している（69.2%）	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0		
		児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	92.3	0	0	7.7		
	11	放課後児童クラブや児童館、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	69.2	15.4	15.4	0	園や学校・学童に通っているので、障害のない子どもと活動する機会はずでに十分あるので今のままで良い	職員の子どものとの交流の機会はあるが、地域のイベントへの参加など増やしていく。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100	0	0	0		
保護者 への 説明 等	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100	0	0	0		
		「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	84.6	7.7	0	7.7	あったように思うが、参加できていない。 回数が増えれば良い。 なかなか時間が取れないし他でペアレントトレーニングなどはやってきたので、このままでよい。	任意参加の家族支援プログラムの実施回数を増やすほか、家族単位での個別の関わりは引き続き継続していくとともに、実施回数と内容を公表する。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	92.3	0	0	7.7	まだ入所して間もないためわからない	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	23.1	30.8	15.4	30.8	回数が増えれば良い。 きょうだいへの支援はまだ無かった。 保護者同士の連携などは望んでいません。 正直面倒な関わりを増やしたくないし、幼稚園や小学校で他の父母と係る機会はあるので、さらに特別な交流の機会は個人的にはいらない。	任意参加の家族支援プログラムの実施回数を増やすほか、家族単位での個別の関わりは引き続き継続していくとともに、実施回数と内容を公表する。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	84.6	0	0	15.4		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	92.3	7.7	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	92.3	0	0	7.7	いつも活動の写真を送って下さるので有り難いが、我が子単体の物に関してはブレてない、ビントが合っている写真だと嬉しい。	カメラの機能の問題はsすぐに解決できないが、技術面の改善に努める
非常 時 等 の 対 応	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100	0	0	0		
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	53.8	0	0	46.2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	46.2	0	0	53.8		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	69.2	0	0	30.8		
満足 度	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	76.9	7.7	0	15.4		
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	92.3	7.7	0	0	手厚く見て頂けている。 大好きな先生方に会えたり、楽しいイベントがあったりするので楽しみに通っている。	多様なプログラムやイベントの提供を継続する。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100	0	0	0		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 発達支援さくらボBERG

公表日 2025年2月1日

利用児童数 33

回収数 12

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	84.6	0	0	15.4		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	92.3	0	0	7.7		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	69.2	0	0	30.8		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	84.6	0	0	15.4		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100	0	0	0	看護師がいるのは知っているが、他に専門性の高い先生が居たとしても知る機会がありません。	作業療法士や理学療法士、言語聴覚士、音楽療法士などの専門職との連携を進める
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100	0	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	92.3	0	0	7.7		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	84.6	15.4	0	0		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	84.6	7.7	0	7.7		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	92.3	0	0	7.7		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	23.1	30.8	15.4	30.8		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	84.6	0	0	15.4		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	92.3	7.7	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	92.3	0	0	7.7		
非 常 時 等 の 対 応	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100	0	0	0		
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	53.8	0	0	46.2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	46.2	0	0	53.8		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	69.2	0	0	30.8		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	76.9	7.7	0	15.4		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	92.3	7.7	0	0	自分の個性を出せる場所なので安心して過ごすことが出来る。と本人が話していた。	安心できる居場所としての機能を大切に環境づくりを工夫していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援さくらボVitta・BERG			公表日	2025年 2月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児の年齢に応じて部屋を分けるなど、適切なスペースを確保している。	児に対するスペースは適切であるが、職員数が多い時に、手狭に感じることがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		基準人員＋加配職員で児1～3人に1人の職員配置を基本としている。児の特性に応じて、配置を増やしている曜日もある。	児の特性に配慮した専門性のある職員を配置できるようにする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		安全面を最優先に考慮している。視覚的にわかりやすい掲示と、適切な情報量でシンプルな配置を心がけている。	2階建て施設のため、完全なバリアフリーは実現できない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		1日に1回以上の清掃を徹底している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	クールダウンできる隠れ家スペースは自由に使用できるようにしている。	完全に周囲の音を遮断できるような個別スペースはないため、聴覚過敏の児の受け入れが難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		組織図と職員の役割分担を明確にし、支援計画会議に加え、職員研修や会議を定期的で開催して業務改善に努めている。	開所2年目で職員の入退職が多かったため、組織改革をおこなった。次年度は定着させていくプロセスと考えている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		オンラインで実施、かつ次年度の利用希望調査と同時期に実施することで、回答数の向上に努めている。結果について職員会議で公表し、課題について検討する機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表を用いた意見収集をするともに、定期的に面談や会議などを実施して意見収集に努めている。事業所の年間計画にも提示している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部評価を計画する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年に3回は事業所内研修を実施し、そのほか外部研修に参加しやすいよう、特別休暇や研修費助成制度を設けている。	研修結果を他の職員に伝達する機会を積極的に設ける。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
発達支援さくらボVitta・BERG		2025年 2月 20日				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所内では支援プログラム内容と月間プログラムを掲示している。	HP上での公表方法を検討中であり、今年度中の公表のために準備している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		契約時に丁寧なヒアリングを心がけ、面談のほか、電話や手紙などを通じての保護者との情報交換を大切にしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員の担任制を取り入れ、保護者との面談や児の支援に担当職員が必ず入り、支援計画の評価と立案に関わるようにしている。支援計画会議を定期的実施している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当職員からの発信・児童発達支援管理責任者の助言により、計画内容が浸透するように工夫している。計画は個別ファイルですぐ確認できるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメント評価指標を活用している。	アセスメントの記録様式を改良中である。新年度に新入職者のためのマニュアル作成が課題である。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		家族と通っている園や学校との連携を強化している点について、理解いただけるように記載、説明している。	開所して間もないため、地域移行の事例がないが、今後はそれを見据えた計画立案についての必要性を認識している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		全員で立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		STEAMプログラムや制作物のテーマなどを週替わり、月替わりで計画し、固定化しないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本的に個別・小集団活動を組み合わせている。	通所時間帯により、個別または集団の時間がとりにくい児童に対しては、定期的に時間が確保できるように工夫する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		早番職員で1日の計画を立て、申し送りをして情報共有をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	子育て・介護中の職員が多く、ほとんどが早番での就労となっており、支援終了後に十分な振り返り時間は確保できていない。翌朝に時間を取るようになっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		保護者への連絡帳の複写を残し、システム上での記録をその日のうちにすることで、職員全員が支援の内容と結果について確認できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		職員の担任制を取り入れ、保護者との面談や児の支援に担当職員が必ず入り、支援計画の評価と立案に関わるようにしている。モニタリング月を一覧にし、会議を定期的実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		持ち物置き場を明確にし、自己管理ができるようにしているほか、活動の内容について、児と確認しながら進めている。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
発達支援さくらボVitta・BERG		2025年 2月 20日			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	管理者または児童発達支援管理者または担当職員などこどもの状況をよく理解している職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	法人のネットワークにより、保健医療・保育・教育機関との連携はできている。就労支援事業所などとの連携も進めている段階である。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	保護者を通じて月間・年間のスケジュールを確認するほか、前日に翌日の下校時間の確認や送迎の有無などの確認をしている。送迎時のトラブル時も適切に対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	関係機関連携、保育所等訪問支援の体制を整え、積極的に情報交換をしている。制度を利用しない場合でも保護者を通じて情報共有できるように心がけている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	低学年の児童が多く、事例はないが、就労支援事業所の見学や情報収集をおこなったり、就労支援の経験のある職員の雇用をおこなっている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	センターからの情報発信はキャッチしており、研修の機会があれば積極的に参加している。法人のネットワークにより、専門家からのスーパーバイズを受ける体制がある。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	多くの児童が普通学級や学童との交流、保育園や幼稚園と併用利用している。	特別支援学校に通う児への交流の機会を検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	年度前期は積極的に参加していたが、事業所運営体制の変更により、後半は参加できていない。資料の共有はおこなっている。	次年度は、管理者または児童発達支援管理責任者が参加できるようにする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	公式アカウントの個別チャットで、適宜情報交換をするほか、必要時は電話や面談で相談に対応している。送迎時に保護者に対応する際には自宅での様子も確認するほか、事業所での活動について口頭で報告している。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者会などの機会のほか、個別に必要な場合には家族支援を実施できる体制を整えている。また、職員が外部研修を受講する機会を設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	管理者及び法人代表にて適切に実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	契約時に丁寧なヒアリングを心がけ、面談のほか、電話や手紙などを通じての保護者との情報交換を大切にしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	適切に実施している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	公式アカウントの個別チャットで、適宜情報交換をするほか、必要時は電話や面談で相談に対応している。特に在籍園や学校でのトラブル、就学に向けての相談が多い。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	集合型の保護者会を開催し、次年度も計画をしている。兄弟で通所している児も多い。	保護者会の開催回数を増やすことと、きょうだい児への支援も検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情対応記録表を作成するとともに、対応責任者を明確にしている。今年度に組織的に対応すべき苦情はなかった。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	公式アカウントで必要な情報提供を定期的に実施しているほか、日々の活動記録は毎日保護者に送っている。ブログの公開方法を年度途中で変更し、現在準備中である。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	十分留意している。施錠可能な書庫に保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	子どもに対しては視覚的にわかりやすいイラストも併用している。外国籍の保護者にはやさしい日本語を使用して情報伝達をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域行事への参加は機会があればおこなっている。	地域の行事に参加するだけでなく、事業所主催のイベントの企画実施が課題である。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援さくらボVitta・BERG				公表日	2025年 2月 20日	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルの作成は実施している。感染症については定期的に感染防御物品の確認と整備を実施。災害時・感染症発生時の対応について契約時と定期的に保護者に通達している。	防犯対策について、訓練とマニュアルの見直しの実施が必要である。		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練の計画・実施をしているほか、避難場所の確認をしている。			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認をしている。			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書が出されている児はいないが、体制は準備している。			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		上記のマニュアルの中に統合しているほか、環境面・指導面での安全管理について職員研修時に意見交換をし、必要時は改善に努めている。			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に説明をしている。	定期的な情報発信が必要である。		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット記録用紙を作成し、定期的に職員会議などで情報共有をしている。			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に4回は事業所内研修を実施し、そのほか外部研修に参加しやすいよう、特別休暇や研修費助成制度を設けている。			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		年に1回は事業所内研修を実施し、そのほか外部研修に参加しやすいよう、特別休暇や研修費助成制度を設けている。身体拘束マニュアルを作成している。				